
法制の対照言語研究：

モーダル、副詞の関わり、言語によるストラテジーの違いを中心として

佐藤 裕美／ラブリー，エスター／チック，ソニア

本研究グループは2021年9月初旬になってようやく研究助成決定の通知を受け、活動の開始からまだ日が浅いグループです。生成文法理論、応用文化言語学、選択体系機能言語学と異なる研究のバックグラウンドをもつメンバーが融合的にコンテキストの中での言語の形式と意味の関係を捉えようとクループを結成しました。世界各国のリーダーたちがコロナウィルスによるパンデミックの中で共通するテーマ、課題について多くのメッセージを発しており、共通点の多いコンテキストの中で異なる言語のメッセージの表し方の違

いに関心を持ったことが契機となりグループでの比較言語学的研究を行っています。現在は、日本、中国、オーストラリア、英国のリーダーたちのスピーチ、記者会見での発言を比較するためのデータ整理と分析をおこない、毎月の例会で報告しています。次年度はこれまで蓄積したデータを基にある程度の成果発表ができると思います。